

# 比較日本学教育研究センター研究年報 第10号 目次

## 《巻頭言》

古瀬 奈津子	3
--------	---

## 《第15回国際日本学シンポジウム フランスへの憧れ

### —生活・芸術・思想の日仏比較—

田中 琢三 概要	4
セッションⅠ 生活文化	
宇田川 悟 フランス料理の日仏交流 150年	6
西岡 亜紀 宣教師が運んだフランス—長崎・築地・横浜の「近代」—	15
田中 琢三 中原淳一と1950年代初頭のパリ	26
安城 寿子 クリスチャン・ディオール受容小史—ある抵抗にいたるまで—	34
北村 卓 宝塚歌劇におけるフランスのイメージ —『ベルサイユのばら』の成立をめぐる—	47
パネルディスカッション (セッションⅠ)	57
セッションⅡ 芸術・思想	
野村 喜和夫 日本現代詩とポストモダンの思想	62
ローラン・テシュネ アンサンブル室町—21世紀の新しい教育—	65
有田 英也 加藤周一<雑種文化論>に見る日本とフランス	68
アレクサンドル・マンジャン フランス語圏の生存主義者と宮本常一—比較研究—	75
パネルディスカッション (セッションⅡ)	83
田中 琢三 総括	91

## 《第8回国際日本学コンソーシアム 食・もてなし・家族 II》

古瀬 奈津子 趣旨説明と総括	93
----------------	----

### ◆日本文化部会Ⅰ

趙 沼 振 団塊世代の抵抗精神に関する一考察—1960年代後半の全共闘運動を中心に—	96
シーコラ・ヤン「もてなし」としての社会的排除—日本におけるホームレスの問題を中心に—	101
李 亜 幕末の陽明学と梁啓超	108
黄 于 菁 荻生徂徠の「礼義」思想について	115
小林 加代子 近世日本における武士道と食事作法	121
李 知 宣 日本宮中公演芸術と文化コンテンツ	127
クリスティン・スーラック Culture, Nation, and the Tea Ceremony —文化・ネーションと茶道—	133
ドブヴェリー・フロラン 平戸藩における山鹿流兵学の受容過程—問題提起と研究方法—	138
荒木 夏乃 概要	142

◆日本文化部会 II

潘 蕾	名前から見る古代日本貴族の家族観	144
河合 佐知子	院政期女院の土地における「権利」とそこから産み出される「力」の考察 —不婚内親王宣陽門院（1181-1252）を中心に—	151
ダミアン・プラダン	東アジアにおける海賊・権力・社会 —1350年～1419年の日・中・韓を中心に—	158
ヤナ・ラシュトコフ	西鶴の作品における当時慣習とヨーロッパ中世の類似	163
寺内 由佳	19世紀宇都宮の商家経営と相続—古着商人の家史・家法から—	168
高垣 亜矢	概要	174

◆日本文学部会

王 瑋 婷	若山牧水『別離』における旅中詠への一考察—〈生命〉への凝視の視点から—	176
蔡 志 勇	日本近代文学における「遊民」像の諸相 —漱石『それから』及び乱歩『屋根裏の散歩者』を例として—	183
曾 婧 芳	「菊花の約」における義兄弟の関係—原話「范巨卿鶏黍死生交」と比較—	189
羅 小 如	泉鏡花「夜叉ヶ池」を読む—いへの表象を視座として—	194
范 淑 文	近現代文学における「食・もてなし・家族」—夏目漱石・村上春樹の場合—	201
蔣 葳	概要	208

◆日本語学・日本語教育学部会

中島 晶子	味を表す言葉	210
畑佐 一味	日本の食と食文化をテーマにした内容重視型中上級教材の開発	218
伊東 克洋	初級日本語作文における自己訂正—コンコーダンスプログラム使用の試み—	220
下浦 伸治	デジタルゲームと日本語教育 —GPSゲーム／位置ゲームエディター「ARIS」の可能性—	227
ポリリー・ザトラウスキー	試食会における食べ物と家族との関係	231
小池 千里	インターアクションにおける日本の共食文化と言語	239
ブンナーク・パッターパン	日本語・タイ語における外来語の受容について	246
石井 久美子	概要	255

《センター活動報告》

センター活動報告	258
研究プロジェクト活動報告	261
センター規則	270
投稿規程	272
第16回国際日本学シンポジウムのお知らせ	274
バックナンバーのご案内	275
編集委員より	276